

研究業績水準判定について（案）

1. 課題

[評価方法の変更]

- 研究業績水準判定に係る資料の提出時期を、その他の資料の提出時期よりも一か月前倒しする。
- 中期目標・中期計画の記載事項の変更に伴い、「重点的に取り組む領域に係る研究業績の分析」を廃止する。
- 中期目標の達成状況の判定に、研究業績水準の判定結果を参考にする。
- 学部・研究科等を代表する研究業績（SS、S）の提出数を、各組織の専任教員数の20%程度を目安とする。

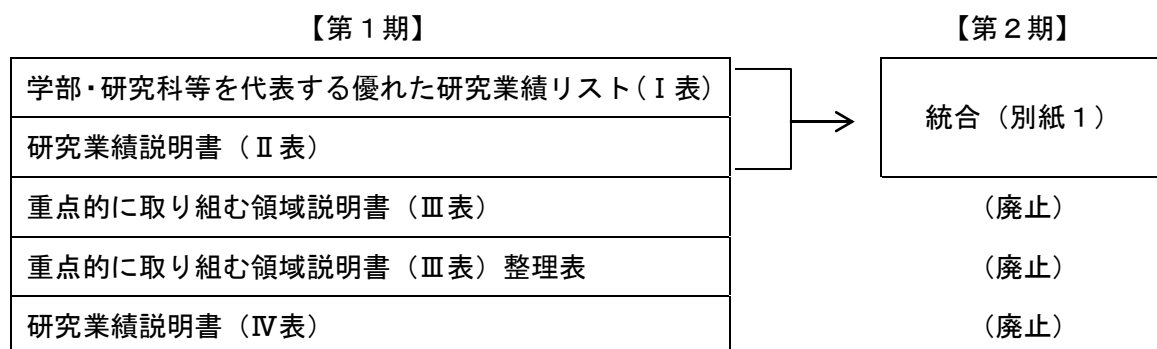
[検証アンケートでの法人からの意見]

- 学術的意義と社会・経済・文化的意義のどちらかを選択する方式では、一つの研究業績が、双方の意義を有する場合の扱いが困難である。
- 論文等の研究業績を一つだけ選択して記入する方式は、複数の連続した研究成果を生む分野では不適当ではないか。
- 「卓越した水準（SS）」「優秀な水準（S）」の判断基準が不明瞭であるため、判断基準の明確化や、具体的な例を示してほしい。

2. 見直し案

[提出資料の削減]（別紙 1）

- 「研究業績リスト（Ⅰ表）」と「研究業績説明書（Ⅱ表）」を一つの様式に統合する。
- 「重点的に取り組む領域説明書（Ⅲ表）」と「研究業績説明書（Ⅳ表）」を廃止する。
- 提出方法を紙媒体から電子媒体に変更する。



[記入方法の変更]（別紙2）

- 「学術的意義」「社会、経済、文化的意義」の併記を可とする。
- 「研究業績」を、「研究テーマ」と「代表的な研究成果」に整理。（代表的な研究成果（論文・著書等）が複数ある場合は、最大3つまで記載可。）
- 記述例を提示。

[判定基準の明確化]（別紙2）

- 「学術的意義」「社会、経済、文化的意義」ごとに、「卓越した水準（SS）」「優秀な水準（S）」の判断基準を明記。

※ なお、研究業績水準判定の結果を、一層活用して達成状況判定を行うため、「達成状況報告書」に関連する研究業績の業績番号を記述する欄を設定。

研究業績説明書

法人番号	XX	法人名	〇〇大学	学部・研究科等番号	X	学部・研究科等名	〇〇学部・〇〇研究科
------	----	-----	------	-----------	---	----------	------------

1. 学部・専攻・研究科等の目的に沿った研究業績の選定の基準【400字以内】

[illegible]

2. 選定した研究業績

業績番号	細目番号	細目名	研究テーマ及び要旨(200字以内)	代表的な研究成果 【最大3つまで】	学術的意義	社会的、経済的意義	判断根拠(第三者による評価結果や客観的指標等) [400字以内。ただし、「学術的意義」及び「社会、経済、文化的意義」の双方の意義を有する場合は、800字以内]	重複して選定した研究業績番号	共同利用等
1	XXXX		○○○の研究 本研究は、○○○に関し、従来より課題となっていた～～～について、～～～という理論を用い、分析・解明したものである。この手法は、～～～という点で画期的であり、これにより～～～であることが明らかとなり、～～～することのできることを示すことができた。	XXX, P.○○○, ○○○, ○○○ 号, ○○○ページ, 2015年	SS		は2015年度の日本○○学会の学会賞を受賞した論文である。この論文は、特に○○○において、「～～」と評価が高く、○○○学会の○○○において、「～～」と言及されている。被引用回数に関して、～～～において、合計○回引用されている。また、本業績に関連して、国際会議では「～～」の演題で、××国際会議では「～～」の演題で招待講演を行い、その他国内の学会等を含めると、計○回の招待講演を行った。本業績は、当該分野のみならず、関連する『～』の研究にも大きく貢献し、国際学術誌『～』において、「～～」と高く評価されている。		
2	XXXX		の研究 本研究は、～～～について、従来まで検証されていなかった～～～の視点から考察したものである。本研究では、特に、～～～という点に着目し、定説とされていた～～～について、～～～であることを論証したものである。	XXX, P.○○○, ○○○, ○○○ 号, ○○○ページ, 2012年 XXX, P.○○○, ○○○, ○○○ 号, ○○○ページ, 2012年 XXX, P.○○○, ○○○, ○○○ 号, ○○○ページ, 2014年	S		は、当該研究の中核をなす論文、～～～は、～～～で論証した～～～のアプローチからも明らかにした論文であり、両論文は2013年度の日本学会の学会賞の対象となったものである。～～～の内容を中心に、最近の研究動向をまとめた総説であり、□学会の□□において、「～～」と言及されている。 また、これらの論文等から構成される「～」の研究について、国際的学術誌『～』において、「～～」との書評を受けており、～～～という点が評価されている。	X-X-X	

「研究業績説明書」作成要領

研究に関する現況分析のうち、分析項目「研究成果の状況」は、学部・研究科等を代表する優れた研究業績を選定し、その水準を把握した上で、研究成果の状況が、学部・研究科等の目的に照らして、学部・研究科等で想定する関係者の期待に応えているか、という視点で分析してください。

学部・研究科等を代表する優れた研究業績として選定した研究業績については、下記の留意事項により、「研究業績説明書」を作成してください。なお、「研究業績説明書」の様式ファイルは、機構のウェブサイト（<http://www.niad.ac.jp>）に MS-Excel 版を用意してあります。

1. 作成に当たっての留意事項

- (1) この説明書は、各法人において学部・研究科等を代表する優れた研究業績として選定した研究業績について、作成するものです。

なお、一つの研究業績が、法人内の複数の学部・研究科等において、当該組織を代表する優れた研究業績として選定された場合においても、それぞれの組織の「研究業績説明書」に当該研究業績を記入してください。

- (2) 各法人における学部・研究科等を代表する優れた研究業績の選定に当たっては、以下の点に留意してください。

対象となる研究業績は、平成 22 年 4 月～平成 28 年 3 月の間に公表された研究業績のうち、当該学部・研究科等で実施された研究（大学共同利用機関や大学の共同利用・共同研究拠点に認定された附置研究所及び研究施設（以下「大学共同利用機関等」という。）で実施した共同利用・共同研究を含む）の成果とします。公表されていないもの（ゲラ刷り段階のものや、刊行予定又は採用は決定しているが未掲載のもの等）は対象としません。また、装置開発にあっては、完成された装置が対象となります。

次の要件を満たす研究業績を選定してください。^{注1)}

）学部・研究科等の目的に沿った研究業績

）学術的意義又は社会、経済、文化的意義において、次の 5 段階の判断区分（SS、S、A、B、C）のうち上位 2 つの区分（SS 及び S）に該当する研究業績

区分	学術的意義	社会、経済、文化的意義
SS	当該分野において、卓越した水準 ^{注2)} にある	社会、経済、文化への貢献が卓越 ^{注3)} している
S	当該分野において、優秀な水準 ^{注2)} にある	社会、経済、文化への貢献が優秀 ^{注3)} である
A	当該分野において、良好な水準にある	社会、経済、文化への貢献が良好である
B	当該分野において、相応の水準にある	社会、経済、文化への貢献が相応である
C	上記の段階に達していない	上記の段階に達していない

注 1) 選定に際しては、第三者評価による評価結果や客観的指標等の根拠資料を基に、優れた研究業績として判断されるものを厳選してください。その際、十分な根拠がないものを選定するなど、自己評価能力を問われることのないよう留意してください。

注 2) 「卓越した水準（SS）」とは、研究業績の独創性、新規性、発展性、有用性、他分野への貢献などの点において、客観的指標等から判断して、当該分野で学術的に最も優れた研究の一つであると認められ、当該分野ないし関連する分野において極めて重要な影響をもたらしている水準にあることを指します。

「優秀な水準（Ｓ）」とは、SSにまでは至らないが、当該分野で学術的に優れた研究の一つであると認められ、当該分野ないし関連する分野において重要な影響をもたらしている水準にあることを指します。

注３）「貢献が卓越（SS）」とは、以下の領域において、客観的指標等から判断して、極めて重要な影響や極めて幅広い影響をもたらしている水準にあることを指します。

「貢献が優秀（Ｓ）」とは、SSにまでは至らないが、重要な影響や幅広い影響をもたらしている水準にあることを指します。

（領域例）

地域社会への寄与、国際社会への寄与、政策形成への寄与、診療・福祉の改善への寄与、生活基盤の強化、環境・資源の保全への寄与、知的財産・技術・製品・製法等の創出あるいは改善への寄与、新産業基盤の創出、専門職の高度化への寄与、新しい文化創造への寄与、学術的知識の普及・啓発 等

選定する研究業績数は、平成 27 年 5 月 1 日に在籍している助教以上の専任教員数（学部と学部を基礎とする一般研究科を一体としている場合等、2 つの組織を一体として現況分析の単位とする場合は、基礎となる組織の専任教員数）の 20% 程度を目安とします。ただし、その数まで「研究業績説明書」に記載することを求めるものではありません。

大学共同利用機関等にあつては、共同利用・共同研究による成果を含めて選定してください。

2. 各欄の記入に当たっての留意事項

- (1) 「法人番号」欄（ ）には、別紙 5「国立大学法人等の法人番号一覧」に基づき該当の番号を、「学部・研究科等番号」欄（ ）には、「学部・研究科等の現況調査表」の目次に記載する学部・研究科等の番号を記入して下さい。
- (2) 「学部・研究科等の目的に沿った研究業績の選定の判断基準」欄（ ）には、学部・研究科等の目的や方向性（学術面を重視、社会貢献を重視など、組織の特色）に沿った研究業績の選定に当たっての判断の基準について、400 字以内で明確に記入してください。なお、SS 及び S に該当する研究業績であることの判断基準を記述しないよう留意してください。
- (3) 「細目番号」欄（ ）と「細目名」欄（ ）には、評価を受けるにふさわしい区分として、科学研究費補助金の「細目番号」と「細目名」を記入してください（「細目名」と「細目番号」については、別紙 6「平成 27 年度科学研究費補助金 系・分野・分科・細目表」を参照してください）。
- (4) 「研究テーマ及び要旨」欄（ ）には、研究テーマを記載のうえ、その要旨を 200 字以内で簡潔に記載してください。（研究テーマと要旨がそれぞれ明確となるよう、研究テーマと要旨の間は、1 行空けてください。）
- (5) 「代表的な研究成果」欄（ ）には、研究テーマに関する代表的な研究成果の内容を記載してください。（最大 3 つまで）
 - ・論文（レフェリー制のある学術誌等に掲載されたもの）
氏名、論文タイトル、雑誌名、巻、ページ、掲載年等
 - ・著書、書籍の中の章等
氏名、著書の名称、担当章等の名称・ページ、出版社名、発行年等

- ・ 報告書
氏名、報告書の名称、発表年等
- ・ 創作活動に基づく業績（技術装置・データベース・ソフトウェア等の開発、建築、デザイン、音楽、絵画、工芸、書道などの作品や発表の記録を含む）
氏名、作品等名、作品等発表年、作品等発表場所
- ・ 特許
氏名、特許名、特許登録年
- ・ その他（スポーツの記録など上記に該当しないもの）
氏名、研究実績名、研究実績の発表年、研究実績の発表場所

(6) 「学術的意義」、「社会、経済、文化的意義」欄（ ）には、当該研究業績の意義について、該当する欄に研究業績の判断区分（「SS」又は「S」）を記入してください。なお、「学術的意義」及び「社会、経済、文化的意義」の双方の意義を有する場合は、双方の欄にそれぞれの判断区分を記入してください。

(7) 「判断根拠」欄（ ）には、研究業績を第三者による評価結果や客観的指標等に基づいて「SS」又は「S」と判断した根拠を 400 字以内（「学術的意義」及び「社会、経済、文化的意義」の双方の意義を有する場合は、それぞれの根拠を明確に、800 字以内）で記入してください。

(8) 「重複して選定した研究業績番号」欄（ ）には、当該研究業績が、法人内の他の学部・研究科等において、当該組織を代表する優れた研究業績として選定された場合に、法人番号、学部・研究科等番号、その学部・研究科等で付した業績番号を記入してください。

（記載例） 「法人番号」 - 「学部・研究科等番号」 - 「業績番号」

なお、重複して選定した研究業績については、他の学部・研究科等の「研究業績説明書」において、「細目番号」、「細目名」、「研究テーマ及び要旨」、「代表的な研究成果」、「学術的意義」、「社会、経済文化的意義」、「判断根拠」、「共同利用等」は同一の内容を記述してください。

(9) 「共同利用等」欄（ ）には、当該研究業績が大学共同利用機関等で実施した共同利用・共同研究の成果である場合に「○」を記入してください。